


# 2024年度（令和6年度） マガレイの漁況予測 （道北日本海～オホーツク海）

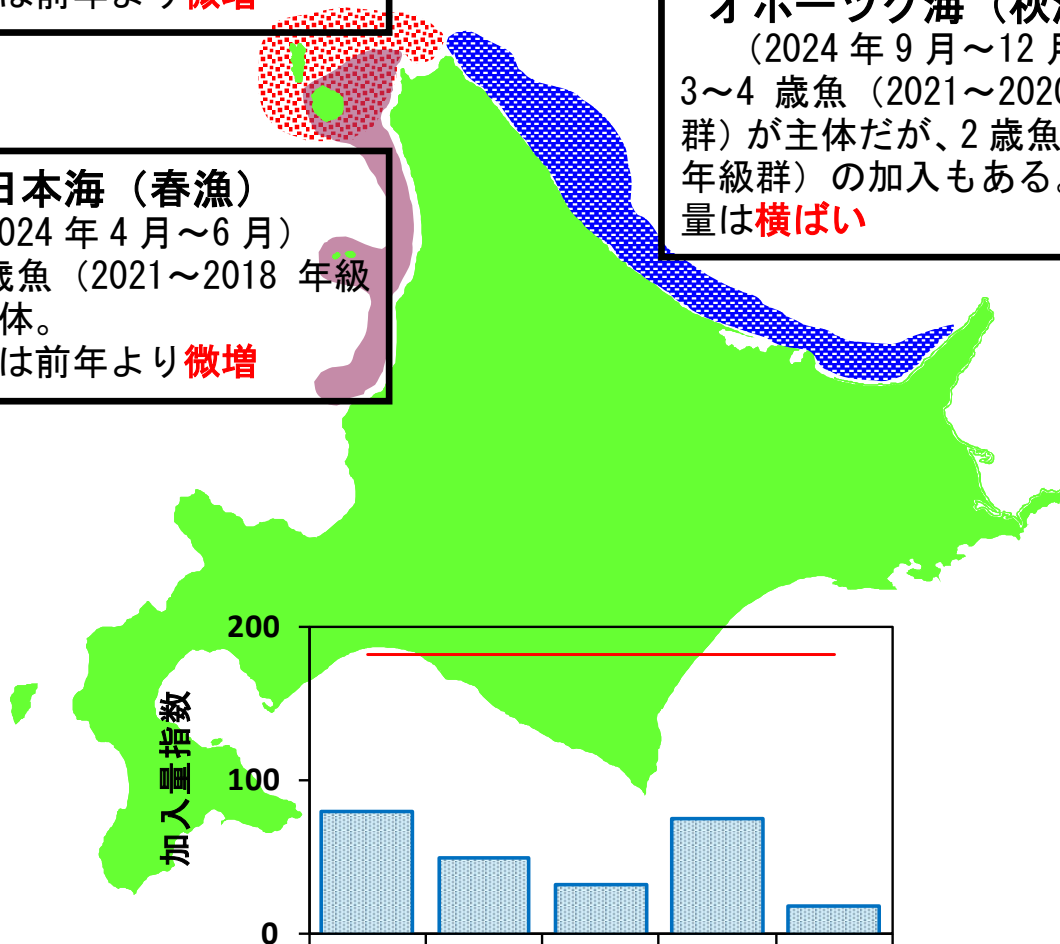
令和6年（2024年）3月27日  
 （地独）北海道立総合研究機構  
 稚内水産試験場  
 道総研 網走水産試験場  
 （協力機関：中央水産試験場）

**日本海（冬漁）**  
 （2024年10月～翌2月）  
 3～5歳魚（2021～2019年級群）主体。  
 漁獲量は前年より**微増**

**オホーツク海（夏漁）**  
 （2024年5月～8月）  
 3～4歳魚（2021～2020年級群）主体。漁獲量は**横ばい**

**オホーツク海（秋漁）**  
 （2024年9月～12月）  
 3～4歳魚（2021～2020年級群）が主体だが、2歳魚（2022年級群）の加入もある。漁獲量は**横ばい**

**日本海（春漁）**  
 （2024年4月～6月）  
 3～6歳魚（2021～2018年級群）主体。  
 漁獲量は前年より**微増**



## 2024年度の主な漁獲対象

※赤の横線は1991～2010年級の平均

稚内水試 HP (<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/wakkanai/section/zoushoku/index.html>)  
 網走水試 HP (<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/abashiri/section/zoushoku/index.html>)に生態情報等を掲載

2024 年度（令和 6 年度）  
**マガレイの漁況予測**  
（道北日本海～オホーツク海）

稚内水産試験場 Tel 0162-32-7166

網走水産試験場 Tel 0152-43-4591

（令和 6 年（2024 年）3 月 27 日）

## はじめに

道北日本海～オホーツク海のマガレイは日本海を産卵場としています。日本海で生まれた魚の一部は日本海に留まって生活しますが、多くは卵～仔魚期にオホーツク海へ輸送されます。そして、オホーツク海で未成魚期の 2～3 年間を過ごした後、成熟の進行に伴い産卵のため日本海へ戻ります。このため、オホーツク海では漁獲物の中心が 2～3 歳の未成魚（ただし、近年は 4～5 歳魚の割合も高くなっている）であるのに対し、日本海では 3 歳以上の成魚が漁獲の中心になります。漁況予測については、漁獲対象の特性に合わせて、以下の 4 つの漁業区分に分けて行っています。

予測対象漁業	海域	漁期	主漁獲対象
日本海春漁	増毛以北日本海沿岸	4～6 月	3～6 歳の産卵親魚
オホーツク海夏漁	オホーツク海	5～8 月	3 歳の未成魚、4～5 歳魚
オホーツク海秋漁	オホーツク海	9～12 月	2～3 歳の未成魚、4～5 歳魚
日本海冬漁	宗谷海峡～利尻、礼文島	10～2 月	3～5 歳の産卵回遊群

## 概況

道北日本海からオホーツク海におけるマガレイの漁獲量は、1997 年度の 3,001 トンをピークに減少しましたが、2003 年度には 3,090 トンまで増加しました（図 1）。その後、漁獲量は 2008 年度（2,642 トン）や 2012 年度（2,091 トン）など一時的に増加する年も見られるものの、漸減傾向を示しています。2023 年度は 12 月末までの途中集計ですが、前年同期と比較して約 10%減少しました（図 1）。

漁業区分別および沖合底曳の漁獲量をみると、オホーツク海での漁獲量は夏漁で前年比 19%減、秋漁で 29%の減となりました。日本海側は春漁で前年比 19%減だった一方で冬漁では 57%増となり、日本海全体で 16%の増となりました。また、沖合底曳の漁獲量は前年比 8%増でした。

2024 年度の漁獲量は、2 歳魚（2022 年級）は前年より減少し、漁獲の主体となる 3～5 歳魚（2019～2021 年級）のうち、4～5 歳魚は前年（2023 年）より減少しますが、3 歳魚（2021 年級）は増加すると考えられます。6 歳魚（2018 年級）は前年より増加すると考えられます。これらのことから、日本海春漁・冬漁の漁獲量は前年度から微増、オホーツク海の漁獲量は前年度より減少または横ばいで推移すると予想されます。

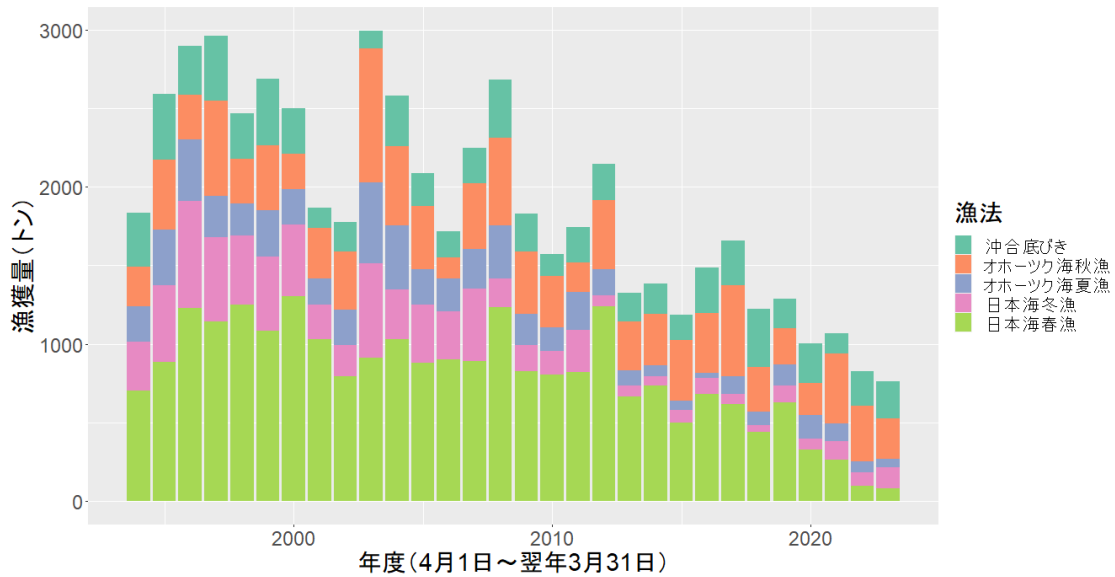


図1 マガレイ漁獲量の推移.

※資料は漁業生産高報告. 2023年度の漁獲量は12月末までの集計値

## 予測の方法

水産試験場では、マガレイの新規加入状況を把握するために、毎年夏にオホーツク海の雄武町沿岸で小型桁網による幼魚調査を行っています。例年27点の調査定点を設け、そこで採集した幼魚の水深帯別の単位面積あたりの尾数を、各水深帯の面積で引き延ばし、「加入量指数」としています。これまでの調査から、雄武の幼魚調査における1歳の加入量指数とVPAと呼ばれる資源計算から推定した1歳の資源尾数との関係から、加入量指数が高い年級群は資源量が多く、漁獲対象年齢に達するとオホーツク海から道北日本海の海域全体で多く漁獲されることが分かっています（図2）。

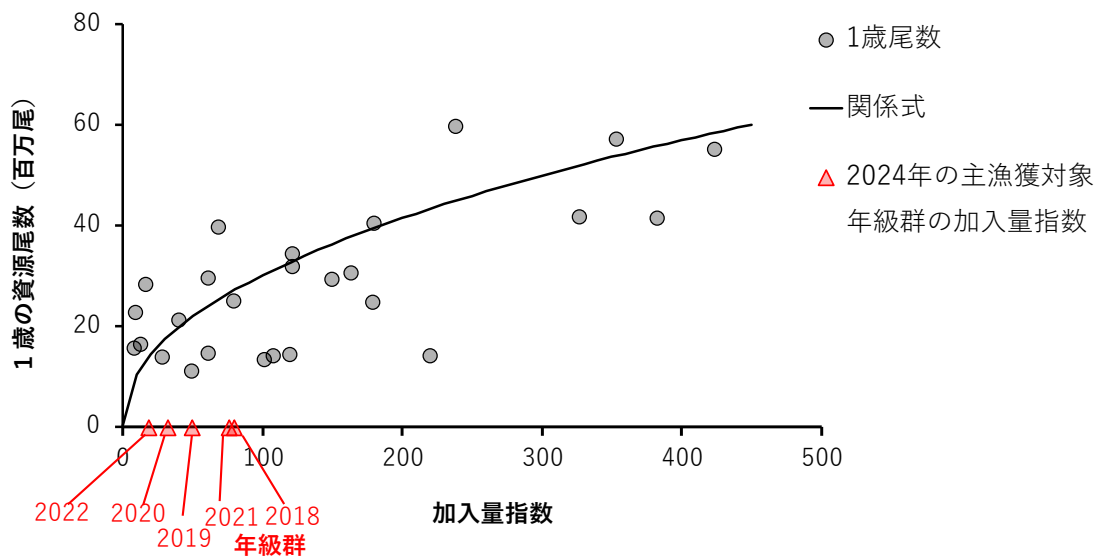


図2 雄武町沖の幼魚調査における加入量指数と1歳の資源尾数との関係.

# 資源豊度

道北日本海～オホーツク海では、主に2歳～6歳のマガレイを漁獲しています。2024年度に主な漁獲対象となるのは、2歳魚（2022年級群：2022年生まれ）～6歳魚（2018年級群：2018年生まれ、）です。それぞれの年級群の1歳時の資源尾数は、図3に示された加入量指数を基に次のように判断されます。

- ・ 2歳魚（2022年級群：2022年生まれ）・・・非常に少ない
- ・ 3歳魚（2021年級群：2021年生まれ）・・・普通
- ・ 4歳魚（2020年級群：2020年生まれ）・・・非常に少ない
- ・ 5歳魚（2019年級群：2019年生まれ）・・・少ない
- ・ 6歳魚（2018年級群：2018年生まれ）・・・普通

これらの情報をもとに、2024年度の漁況を海域・漁期毎に予測します。

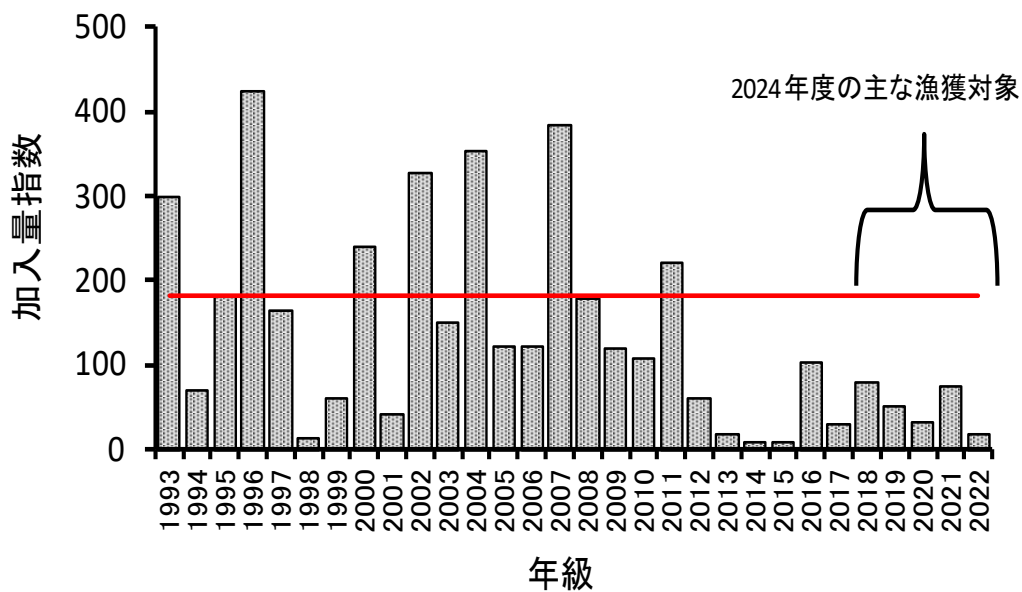


図3 各年級群1歳時の加入量指数.  
※赤い横線は1991～2010年級の平均

## 道北日本海海域の予測

**2024 年度の予測** (2023 年度同期と比較して)

**春漁 漁獲量は微増**

**冬漁 漁獲量は微増**

### ● 春漁 (2024 年 4～6 月)

日本海の春漁では、例年 3～6 歳の産卵親魚が主な漁獲対象となります。2024 年度の資源量は、4 歳魚 (2020 年級群) の加入量指数が低いものの、3 歳魚 (2021 年級群)・6 歳魚 (2018 年級群) 等の加入量指数が比較的大きい年級の本格的な加入が見込まれることから、漁獲量は微増することが見込まれます。一方で、近年はニンシン等へ漁獲対象が変化していることから、マガレイへの漁獲努力量は減少傾向にあり、資源への漁獲圧は低下していると考えられています (詳細はマガレイ (石狩湾以北日本海～オホーツク海海域) の資源評価書: <https://www.hro.or.jp/upload/43860/2023HokkaidoStockAssessment.pdf>)。

### ● 冬漁 (2024 年 10 月～2025 年 2 月)

宗谷海峡～利尻・礼文島周辺で秋から冬にかけて漁獲されるマガレイは、オホーツク海から日本海に産卵のため移動する群 (3～5 歳) が主体となります。冬漁における 3 歳魚は 2021 年級にあたるため、加入量指数は「普通」となります。2021 年級は、近年では比較的高豊度であった 2018 年級と同等な資源量指数を示していることや、2018 年級の獲り残しが存在することも考慮すると、漁獲量は微増すると予想されます。

# オホーツク海海域の予測

2024 年度の予測 (2023 年度同期と比較して)

夏漁 漁獲量は横ばい

秋漁 漁獲量は横ばい

## ● 夏漁(2024 年 5～8 月)

オホーツク海の夏漁は、3 歳魚が主体で、4 歳魚も多く漁獲される傾向があります。本漁期の主体である 2024 年度の 3 歳魚 (2021 年級群) の資源量は、普通の加入量指数を示しています (図 3)。また、4 歳魚 (2020 年級群) の資源量は、非常に低い加入量指数を示しています (図 3)。これらのことから、2024 年度の夏漁の漁獲量は横ばいと思われます。夏漁の推移のトレンドは全体では減少傾向を示しています (図 4)。

## ● 秋漁(2024 年 9～12 月)

秋漁では 3 歳魚を主体に、加えて漁獲サイズにまで成長した 2 歳魚も加入してきます。2024 年度の 3 歳魚 (2021 年級群) の資源量は、普通の加入量指数を示しています。しかし、2 歳魚 (2022 年級群) の加入量は、非常に少ない加入量指数を示しています (図 3)。これらのことを総合的に考慮すると、2024 年度の秋漁の漁獲量は横ばいと思われます。秋漁の漁獲量の推移のトレンドは、横ばい傾向を示しています。(図 4)。

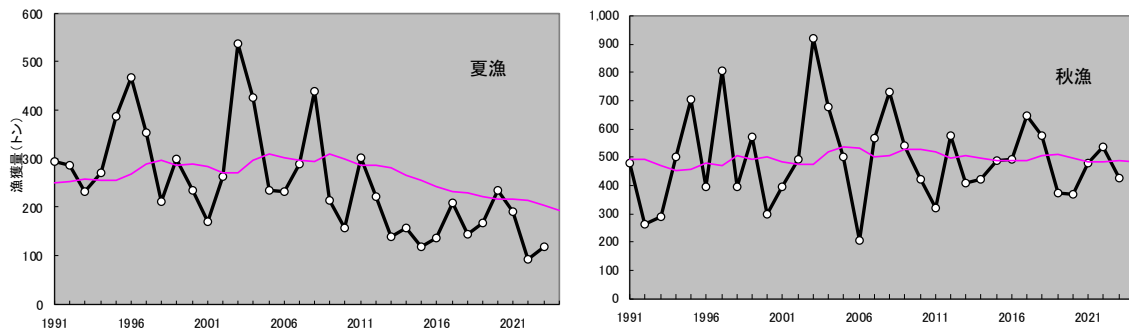


図 4 オホーツク海域のマガレイの夏漁(左)と秋漁(右)の推移。

※赤線はトレンドを示す。